

SDGsへの理解を深めた岡山経済同友会の研究・推進会議



事業戦略にSDGsを

政投銀調査役

活用例を講演

岡山経済同友会
研究・推進会議

岡山経済同友会(岡山市北区厚生町)は10日、社会課題の解決指標として国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」への理解を深める研究・推進会議の会合を岡山市内で開いた。日本政策投資銀行(東京)の八矢舞子調査役が「SDGsをどう活用するか」と題して講演。地元企業による実践例の発表もあった。

八矢氏は、社会課題の解決に積極的な企業に資金提供する「ESG投資」の動きが国内外で広がっていることを説明。「2008年の金融危機を契機に、長期的な企業の成長を投資家が意識するようになった。環境への配

をつかめる。事業戦略の中にSDGsを組み込み、社会課題の解決と収益向上策を同時に進めていくべき」と指摘した。

このほか、岡山、鳥取県でスーパー事業を展開するマルイ(津山市)の春名久美子課長が、店頭でのレシビ提案や農業体験など06年から続ける食育推進活動を報告。当初は従業員に浸透しなかったが、外部から評価されて徐々に理解が深まった経緯を話し、「活動をより充実させるには、地域や教育機関など外の目線を取り入れることが欠かせない」と述べた。

慮や技能伝承など、財務以外の情報が重視されるようになってい」と背景を述べた。SDGsの推進で年間12兆円の経済価値が生まれるとする世界経済フォーラムの試算も紹介。「変化にいち早く対応した企業が市場

野があるSDGsの考え方を経済活動に取り入れようと、既存の委員会を横断する形で本年度発足。これまでに講演や先進地の視察などを行っている。この日の会合には会員の経営者ら約40人が参加した。(太田知二)

同会議は、資源保護や技術革新など17の分野があるSDGsの考